



発言した代議員(敬称略・順不同)

木村洋、七ツ田卓(盛岡) 櫻庭知也、藤村卓弥(秋田) 今野尊人(仙台) 村田祐一(水戸) 砂塚悠介、栗原奨(千葉) 鈴木雄大、熊谷雅之(東京) 石川元生、梶田優一(横浜) 野中広俊(八王子) 越場浩陸、矢口昌広(大宮) 阿達朗(新潟) 曲尾優一郎(長野) 鴨志田淳(営業) 関根巖(きかく)

場を怒られる「本人希望ではない乗務員の意欲

安全哲学の再確立に向けて

主な発言

国府津運輸区の懲罰的日勤教育。事象の場合は数日、不祥事の場合は数ヶ月の変形日勤に違和感を抱きつつも放置していた。しかし「人格否定の教育」だと気づき、本人と分会三役を中心にたまたま。事象が起きたらすぐ相談する。外からの見え方・意見を聞く、本人と連絡をとり支えることが大切。宇都宮運輸区で懲罰的日勤教育により医療保護入院に。本人は退院したが「あの日のことがフラッシュバックし、そわそわし、落ち着けない。心の安定が得られず不安、頑張れないけど、死ぬ度胸は無くしたので」という。本人を追い込んだ管理者は許されない。一方で自身が個人の問題に切り縮めてしまい、自分が作った現実と受け止めている。交渉を通じ、運輸業務を全く知らない管理者による4M4Eに基づき「新人並みの教育が必要」と判断したことが判明。会社任せでは安全はつけない。豊田運輸区の組合員に駅への異動を一方的に打診。本人は入社時に駅でイジメを受けた記憶が蘇り心身状態が悪化、泣きながら相談。体調を崩す中、6月1日の異動は無くなり6月3日に出動したが、乗務途中に指令から区に戻るよう指示され、区長・副区長から事前通知(6月15日発令、後に発令延伸)が渡された。突然の事に持病の混乱状態が発症、副区長は「また演説みたいにして、おかしいふりをするのはやめよう。都合いいな。区長は「私は異動の指示を受けて紙を渡すのが仕事」「病気のことは不服を申し立てればいい」「何かあっても事前通知を渡す」「なんだ、その態度は!」と喝罵し、病気が休職に。この異動は組織破壊であり人間破壊権力を見て周囲の委縮をはかる。35年間積み上げた協約や議事録を武器にたたかう知悉度確認を運輸士だけ実施すると発表。受験者のうち3%、最低入力は日勤にする姿勢に、日勤教育が目的としか思えない。結果の返答も1ヶ月以上かかるというが、間違いはその場でフォロースべき。各地の訓練センターの組合員と意見交換。「委員

経営姿勢 職場実態の改善に向けて

が低い」という実態。罰金は東中野事故を契機に設けられたが、失敗を通じて弱点を把握できるメリットが活かされていない。大月事故の教訓は「何でも話せる職場風土」。区長に迎合する指導員はあんなにきついか。バス職場でも日勤教育。当事者を責め立て、人格を否定し、会社へへ順にさせることが対策なのか。本人・指導員・管理者が同じ目標で対策すべきで、「俺はできるのになぜお前はできないのか」と怒鳴っても変わらない。一方、事故のポイント累積で賞罰委員会にかけるのは「崖へ追い詰めること」。真実を語れる風土が事故を防ぐ。日勤教育の実態は人権否定、脱退懲罰、人間否定であり構えが大切と学んだ中、事象が発生。すぐに本人を支え、管理者に内容を確認。本人は「早くに業務復帰のための教育だと確認してくれたから、それが実感できる教育内容だった」と、初動の大切さを実感。「事象を起すから日勤は仕方ない、大ごとにするは本人が苦しむ。家族の迷惑になる」として経過を見守るのは「何もなし」ということ。放置せずすぐに議論することが大切。安全再確立は自己保身のためだけに、会社に騙されないようたかおつ

組織強化・拡大と 組織の再確立に向けて

18春闘大敗北の原因は「大労組病」。右向け右と強てした結果、誰もいなくなつた。脱退は会社にも心も売り渡すことであり、食い止められなかった私たちの責任。会社が組織再編を進める中、JR東労組の必要。リターン化が必要。組織の再確立が必要。本部青年部を築いてきた。この会社は30年以上、青年部世代の展望を切り拓くため、組織拡大を取り組む。18春闘以降、分裂的に行き、JR東労組に残るかを問われたが、18春闘の総括で自身に失望を向けた本部が正しいと思つた。組合員を出発点、現状把握と政策提言力向上が大切。サクルの繋がりから連絡をとり、足を運ぶ3年かけて再加入。小さなきっかけが大切。団体交渉も対立ありきではなく、より良い施策にする視点で議論し、現状の中で可能な改善案を確認してきた。事象を起した際に内勤・指導員の対応が冷たかったが、組合員に相談する。仲間として接し、動きやすい職場づくりを取り組む姿をみて再加入。分会支部の活動を取組む中、自分の行動がカンフル剤となり、問題意識を共有したい。18春闘で脱退したJESの仲間となり、職場で問題点を上申しでも連なる状況で議論。JR東労組の重要性を再認識し、再加入。その組合員仲間を増やすために議論し、野球大会の全国の仲間とのつながりをきっかけに新規加入につながった。加入はゴールではなく、彼ら人生をどう守るかが問われる。JR東労組の重要性を広めていこう。

ローカル線の将来に向けて

沿線の市議会議員と意見交換し「沿線の強み・利益を生かす」とランドサイン入りたい。市民対象の意見募集にも応募を促し、日頃の業務経験をもとに提出した結果、再構築案の検討報告書に組合員の意見が多数掲載。ローカル線を残すには推薦議の皆さんが力をつけてください。地域や議員の皆さんとの連携、意見交換を繰り返し、各線区で市民の会を結成。組合員とも活性化アンケートを取り組むこと。今後は、連絡会の連帯強化を組合員と共にすることが大切。活性化案の実現をめざす。

Table with 3 columns: Organization, Executive, Representative. Includes 全日本鉄道労働組合総連合会, JR東労組OB会, etc.

Table with 3 columns: Organization, Executive, Representative. Includes 北海道旅客鉄道労働組合, ジェイアール東海労働組合, etc.

組合表彰受賞者の皆さま おめでとうございます!



第32回情報コンクール受賞機関 おめでとうございます!



Table with 4 columns: Department, Award Category, Recipient Name, and Organization. Lists winners from various departments like 支部の部, 分会の部, etc.

2023年度新執行体制. List of new executives including 中央執行委員長 佐藤 英樹, 兼 総務・財政部長 佐藤 伸也, etc. Also includes a photo of 田谷雅敏さん (総務・財政担当部長).

安全哲学を逆戻りさせた自覚に立ち、当事者意識をもって安全哲学と組織の再確立、鉄道の未来を切り拓くため、組織拡大に立ち上がろう!

総括答弁(要旨) 書記長 加藤 誠

【安全】自己保身体質に矢印を向け、悪しき風土をつくり変えよう! 19名の代議員から発言がありました。安全再確立は自己保身のためであり、当事者意識を持つことが問われています。豊田運輸区でのパワハラについて、内命を守るために指令を介して乗務を降ろすなど聞いたことがありません。乗務中に不安感を押しつづけられ、何かあったらどうするのでしょうか。八王子支社長と区長に内容証明で抗議文を提出し、応じない場合は法的手段を求めたいです。私たちは断固許さず、本人を支え、会社が強行するならば社会的に明らかにしていきます。また、宇都宮運輸区でのパワハラも悔しくてたまりません。一方で副区長と副区長は素知らぬ顔をしていて聞きます。国府津運輸区でのパワハラも「熱のこもった指導」と未だに正当性が主張されています。平成30年に出席された「管理者の皆さん」は「仮に不当労働行為と評価される事実が確認された場合は、会社の社会的責任が問われるため、当事者の責任を問う」として責任を認めません。自段まを考えたのに平気であるのだから異常です。

【春闘・期末手当】低額相場を打ち破った実践を教訓に、1万人の声を集約しよう! 23春闘では、社友会やJR連合による低額相場を打ち破ると共に、JR総連春闘として連帯を打ち取りました。会社は最高益の時も「突出感」や「足並み」といった言葉を抑制し、結局は世間相場にやがにに、私たちの声には答えません。夏季手当も「最大限」の回答だと繰り返され、年間5ヶ月ベースと言わんばかりです。「融合と連携」の努力に込められず、働き損になることから、最低でも6ヶ月ベースに戻す必要があります。人材流失についても、工務・検修職場にはほとんど新入社員がおり、内定辞退も多発しています。「融合と連携」の中で仕事ができないレッテルが張られ、管理者も部下を見る余裕がありません。今後は出向も拡大するとみられることから、改めて本人希望を前提とさせる運動をつくらなければなりません。組織拡大で1万人組織を目指すのですから、年末手当の声も1万件以上の集約をめざしましょう。

【ローカル線】「ローカル線」を許さず、官制的な自治体を許さず、地域住民・自治体との連帯を深めよう! ローカル線について、当事者意識をもって実践した発言がありました。沿線自治体を訪れたある支社の担当者は「もう鉄道やめましょう」と市長に述べ、被災した路線の復旧についても「私たちがやりません」と官制的に言い放ったと聞いています。地活法の改正に伴い議論が進みますが、有識者会議で議論の対象とされた転送密度1000人未満を4000人未満に拡大する動きや、目安であると確認してきた議論期間を3年縛りに戻す動きもあります。住民の皆さんや自治体と共に、何が良いかを考えていきましょう。

【組織の再確立】1年かけて組織のあり方を議論しよう! 組織の再確立について切実な発言をいただきました。関係する皆さんと共に1年間議論し、次の大会で結論を出してまいります。また、「東北協議会」首都圏協議会を通じた連帯も重要です。青年部のあり方とともに、必要な議論を提起してまいります。私たちはあらゆるテロにも戦争にも反対です。9条連ニュースも200名以上の購読拡大を勝ち取りました。組織拡大と組織の再確立、そして安全哲学の再確立をめざして、新生JR東労組連帯宣言をもとに階段を上ってまいります。

